

状況を見ないとなかなか難しいというようなお話でしたけども、市民への説明については、先ほど市長からもお話しあったように、財政用語ってというのは非常にわかりにくい言葉がたくさんありますので、家庭の会計っていうか、そういうふうに置きかえて説明するのちょっと難しいですかね。そういうことも一つできるのではないかと思います、その辺ちょっと市長からお願いしたい。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 浅野議員のほうから家庭の家計と置きかえてっていう話だったんですが、これ大変な誤解を招くんですね。私ども市町村の財政は家庭の財政とは一様に比較できません。わかりやすいようなんですが実は大変な誤解を招くと。ですから、こういうこと言われましたね、市庁舎を建てるときに、市長は自宅建てんなべと。自宅建てるとき、ほんじゃあ、俺だもマイホーム建てるときは何か節約すんなねなどと。今までビール2本だったら1本だとか、ビールから発泡酒だとか。だから何かすんべと。まず人件費減らすなんべ、こう言われました。ということは、家庭と我々行政っていうのは違うわけですよ。というのは、私どもは、まず我が家の生活をどういうふうに守っていくかということで家計に例えるんでしょうけども、しかし、私どもの収入というのは国と一体なんです。ですから私どもで、じゃあ、もっと生活がよくなるように、あるいはいろんなことが実現できるように、じゃあ、稼ごうということで、じゃあ、市民の皆さんにいっぱい働いてもらって税金いっぱい納めてもらおうとしますと、ご存じのように私どもは交付税っていうのを地方交付税で40億円以上いただいているわけですね。それが減るだけなんです。ですから、ちょっと誤解を招くんですね。したがって、わかりやすい家計というのに例えるのではなく、やっぱりいろんな工夫をしてやっていかなきゃいけない。

それと、まず、くどくどと最初、昔の話からしましたけども、例えば今、公共施設整備をすることが次の世代につけを負わせるんだらうっていう人、結構いらっしゃいます。それはある意味ではそのとおりでありますが、じゃあ、今、何で私どもこれだけ苦労してるか。誰が悪いってわけじゃないんですけど、時代のこういう移り変わりの中で、本来はしなきゃいけなかった時期にしなかったから我々がこんなに苦労してるわけですよ。私どもも、じゃあ、これ大変だから先送りだとすると、次の世代、我々の子供、孫の世代が厳しくなる。そうすると、どっかで見放されるわけですよ、どうせ長井市だめだからと。だから、今、長井市で起きてる静かな現象が結局、長井市はだめなまちだからもう出でどこでもいいから住んでくださいというふうに親が子供に言ってるんじゃないかと。そういうまちにならないようにしなきゃいけないと思っております。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 はい、わかりました。大変家庭の会計で示すのは難しいというふうに私も思ってますが、やっぱりかみ砕いて少しわかりやすい資料をぜひ年度末にでも市報等でお知らせいただきたいと思います。

若干、長寿命化計画で質問したかったんですが、時間もなくなりましたので、本日の質問はこれで終了いたします。ありがとうございました。

### 鈴木富美子議員の質問

○平 進介議長 次に、順位2番、議席番号10番、鈴木富美子議員。

(10番鈴木富美子議員登壇)

○10番 鈴木富美子議員 おはようございます。

清和長井の鈴木富美子です。会派を代表して質問させていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大により、一斉に休校になるなど、生活が一変し、登下校する子供、元気な子供たちの声が聞こえなくなり非常に寂しい思いがします。一日も早く終息に向かうことを願い質問に入らせていただきます。

質問に入る前に、けん玉についてお話をさせていただきます。

私がけん玉のわざを知ったのは1992年、平成4年のべにばな国体だと思えます。長井市の競技は卓球でした。開会式の会場は置賜生涯プラザで、開会式のセレモニーは定かではありませんが、小学生の高学年によるけん玉のわざの披露でした。四、五百人ぐらいだったと思えます。国体の開催に向けて3、4年生のうちから各学校で練習をしていたような記憶があります。

長井市で競技用けん玉を生産したのは1974年、そして1990年には長井市がけん玉生産日本一となり、長井郵便局においてけん玉塾を始めたそうです。また、5年前の皆さんも記憶にあると思えますが、2015年には長井市においてけん玉を連続してキャッチする最多人数、長井式大皿ドミノのギネスに挑戦し、2016年2月14日に達成いたしました。ギネスに挑戦するに当たり、1回目160人、2回目130人、3回目150人と多くの市民が参加いたしました。まさに長井市はけん玉生産日本一、けん玉ファン日本一になったと私は思いました。そのほか、日本けん玉協会主催のけん玉ペインティングでは、全国で3,064人の応募の中で、長井市からは330人が応募、44名が1次審査を通過、その中の5人が全国コンテスト入賞、過去には文部科学大臣賞を2人の方が受賞されております。

昨年はけん玉の日 in 長井と称しまして、けん玉チャレンジラリーのイベントを開催、約50数軒の市内の宿泊施設、レストラン、カフェ、理容室などなどさまざまな店舗や企業様の協力

を得てお店で割引やサービスを受けられるマップを作成。延べ1,300人の方が参加され、市街地の活性化、交流人口の拡大に寄与していると考えられます。

それでは、第1項目の質問に入らせていただきます。

施政方針の中の資源を生かし活力を生み出すまちづくりに寄与するための施策として、私はけん玉を市技にすることを提案したいと思えます。

私は昨年10月12日にけん玉芋煮交流会に参加いたしました。その日は台風の影響で外での芋煮会はできず、あやめ会館の2階での交流会となりましたが、参加申し込み70人から50人と減った中での交流会に、私は何も知らず、おいしい芋煮と地酒がいただけるということで喜んで参加したところでした。けん玉が大好きなご家族が大勢参加されていたのはもちろんですが、ほとんどが市外、県外の方でした。長井市民として、ただ芋煮とお酒をごちそうになるのが恥ずかしくなり、長井市のアピールと思いながら、冷や汗をかいた記憶があります。しかし、けん玉一つで難しい会話をしなくてもみんな笑顔で会話ができることのすばらしさを感じてまいりました。

この交流イベントについて、商工観光課長にお聞きいたします。このイベントの主催はどこののか、いつから開催していたのか、予算はどのようなのかについてお聞きしたいと思います。

次に、ことしの2月9日に行われました長井市民けん玉大会についてお聞きいたします。

参加者は77人とお聞きしております。お子さんからシニアまで多くの市民が参加されていまし、山形新聞にも大きく報道されていまし、この大会は第1回目とお聞きしておりますが、開催したことにより、市民の皆さんの反応はどうだったのか、商工観光課長にお聞きいたします。今後、毎年続けていくのか、予算の心

配はないのかもあわせてお聞きしたいと思えます。

次に、学校教育課長にお聞きいたします。この大会に私の孫も参加いたしました。大会参加のためにいつもやっているゲームの時間をけん玉大会のために使っておりました。このことは、アウトメディアにも貢献しているのではないかと私は感じました。

そこで、各学校にけん玉を自由に使えるように、例えば昼休み、放課後など、特に雨の日は有効的だと思いますが、どうでしょうか。子供たちの集中力にも貢献できると思いますが、いかがでしょうか。

最後に市長に提案いたします。前段でけん玉についてお話しいたしましたが、子供たちの集中力アップ、アウトメディアへの貢献、けん玉ペインティングなどなど、競技用けん玉生産日本一はもちろんですが、けん玉工場だけが企業として発展したのではなく、塗装や包装紙、印刷物などなど、さまざまな企業の発展にも寄与していると感じます。

また、高齢者の人口がふえる中で、けん玉をすることによりバランス感覚を向上させる働きがあるともお聞きいたしております。駅前にはけん玉交流広場スパイクがあり、スパイクファミリーの皆さんも多方面にわたり活躍しておられます。交流できる居場所づくり、シニアにとっても、また何よりもけん玉を介して資源を生かし活力を生み出すまちづくりに大きく貢献できると思います。けん玉を市技に定め、市内におけるけん玉のさらなる普及と発展を図り、地域振興に寄与していくのではないのでしょうか。他市町村の市技、町技を調べてみました。広島県尾道市では、囲碁を市技として条例を制定、ほかには北海道深川市、佐呂間町、小清水町、倶知安町など、バレーボールやソフトボール、スキーなどを条例化しております。けん玉に関してはどこにもありませんでした。

地域が一体となり、今まで以上に国内外にけん玉文化を発信してはどうでしょうか、市長のお考えをお聞きいたします。

続いて、第2項目に入ります。食品ロスについて質問をいたします。

1月の6日、令和2年の新春祝賀会のホテルの会食時のお話をさせていただきます。食事時間も余りないままお開きになり、ほとんどのテーブルの上には手つかずの料理が多くあったことは、出席された方はお気づきになられたと思います。これを見て皆さんはどう思われましたか。一言で言えば、もったいないですね。なぜこんなことになったのか、新春祝賀会そのものに問題はなかったのでしょうか。市報の1月号では、乾杯後の30分、お開き前の10分は席に着いて食べるとの記事を載せたばかりでした。司会の方から一言あってもよかったのではないとも思いました。食品ロスの問題に取り組むためにも、市が主催する会合から率先して注意を払うべきと思いますが、総務課長のお考えをお聞きいたします。

次に、お話をさせていただくのは、社会福祉協議会でのもったいないプロジェクトです。この活動は、家庭で食べ切れない食品を随時受け付けし、そのいただいた食材を利用し、月1回開催している子ども食堂に役立てているとお聞きいたしております。もったいない心と食べていただける心との見えない交流があると思います。SDGsとは、国連の持続可能な開発目標のことです。17のゴールと169のターゲットがあり、私たちの暮らしの中で一つ一つがSDGsのどれかのゴールと関係していると思います。社会福祉協議会で行っていることもその一つではないのでしょうか。

そこで、提案ですが、全ての宴会とはいかないまでも、乾杯してから30分、料理をつくっていただいた人に感謝を込め、しっかりとごちそうになった上で各テーブルにご挨拶に行くよう

にはいかがでしょうか。また、お開き前の10分は残さないようしっかりといただく。そうすれば食品ロスの問題も少しずつ解決していくのではないのでしょうか。市として奨励すれば、俺ささっぱりつぎに来ねえとか、挨拶もしに来ねえなよなんてこともなくなるのではないのでしょうか。飯豊町におきましては、既に実行しており、まちで3010運動のコースターをつくり宴会時に使用しています。長井市もぜひこの運動を展開すべきと思いますが、市長のお考えをお聞きいたします。

次に、第3項目は、学校給食共同調理場新築に伴う児童センター児のアレルギー食の対応についてお聞きいたします。

初めに、新調理場における長井市職員の配置や業務内容に変更はあるのでしょうか、教育参事にお聞きいたします。

次に、新調理場にて給食の供給が始まるわけですが、児童センターにも給食を提供するとお聞きしております。アレルギー食に対する献立等については、先日の厚生常任委員会協議会においてお話があったように、管理栄養士が必要になると思います。今現在、調理場には山形県職員の管理栄養士がいらっしゃいますが、児童センター児に対しての仕事はできるのでしょうか、教育参事にお伺いいたします。

最後に、市長にお聞きいたします。東置賜2市2町、西置賜は飯豊町に管理栄養士がいらっしゃいます。長井市では就学前幼児のアレルギー等に対応したレシピを考案し、6次産業事業者と連携し栄養士を雇用するとの説明を産業・建設常任委員会協議会でお聞きしましたが、長井市としてきちんとした形で管理栄養士を採用し、子育て支援として児童センター児のアレルギー食の対応をしっかりとすべきと思いますが、いかがでしょうか。また、健康課や地域包括支援センターでの活躍も期待されると思いますが、いかがでしょうか。

以上で壇上からの質問を終わります。明確なご答弁、よろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 清和長井を代表しての鈴木富美子議員から大きく3点ほどご質問、ご提言をいただきました。

まず、最初に、けん玉を市技としてはどうかということについてお答えを申し上げます。

まず、最初に、けん玉を市の定めるわざ、これ文化なのかスポーツなのか、この辺はこれからいろいろ議会からも議員の皆様からもご意見いただきたいと思いますが、いわゆる市技というご提案をいただきました。大変ありがとうございます。けん玉は多くの交流人口、あるいは関係人口、交流人口っていいですか関係人口ですね、今風に言いますと。こういったものを生む貴重な役割を果たすということは、鈴木議員からもご紹介いただきましたように、これまでの取り組みを見ても明らかでありますし、いつまでも持続可能な活力あるまちづくりの大きなツールとして重要な役割を果たすものと考えております。

先ほど詳しく鈴木議員からけん玉のことについてご紹介いただきましたけれども、長井市はご案内のとおり、けん玉協会の長井市支部を中心に、以前はべにばなの国体に合わせて当時の小学5年、6年、4年生からですか、その子供たちが今、ちょうど40歳前後ぐらいになっているそうでございますけども、べにばなレジェンド、またスパイクファミリー等々としまして、多くの市民の皆様とともに、地域の活性化のために大変さまざまな若い人たちならではの活動をしていただいたということで、まずもってそういった皆様に、市民の皆様にご敬意を表させていただきます。とりわけ2016年ですか、挑戦いたしました大皿ドミノ、ギネス挑戦、3回目で達成いたしましたけども、この若い人

たちのエネルギーはすごいなと改めて大変感動したことをお礼として申し上げたいなというふうに思います。

議員からありましたように、けん玉のふるさとプロジェクトの皆さんが中心となって、2月9日に第1回長井市けん玉大会が開催されました。多くの市民に参加いただきまして、初回ではありましたけれども、大変盛り上がったと。しかも我々行政じゃなくて若い人たちの手づくりであれだけ盛り上げていただいたっていうのはすごいっていうふうに重ねて感謝を、そして敬意を表したいと思います。当日は県外からわざわざ見学に訪れたグループもいらっしゃいましたし、このような大会を継続することで、さらにけん玉が市民の皆様に浸透して行って、名実ともにけん玉の里、けん玉のふるさと、けん玉の聖地に近づいてほしいと考えております。

最近では、福祉用けん玉も開発されまして、お年寄りでも比較的簡単にできることから、健康づくりにも役立ちますし、幅広い年齢層で取り組めるものでございます。ちなみにことしの100歳以上の長寿のお祝いに、62名の方に福祉用けん玉をぜひ使ってくださいっていうのでお贈りしたところでございます。

議員からあったけん玉を市技ということについては、その大会のときに実行委員の方からも、ぜひけん玉を市技に定めてほしいという提案などもいただきました。他の自治体の認定状況も議員から紹介あったとおりでございますけれども、まだまだ少ないので、できれば私ども県内では最上町でスキーを町の町技としてるようでございますが、条例化はまだしてないということでもありますので、ぜひ先頭を切って長井市がそういった条例化を議会のほうに提案させていただくように準備を進めたいと思っておりますし、これは今後のまちづくりに大変大きな力になるものと考えておりますので、市技認定をスポーツか文化か、この辺などはご意見などをい

ただきながら準備を進めていきたいと思っております。できますればこの6月議会にでも上程すべく考えておりますので、今後ともよろしくご指導いただきたいと思います。

続きまして、2点目の食品ロスを減らす取り組みについてということで、議員からは毎日の暮らしの中でできることを市で推奨してはどうかと。宴会時における3010運動を推進してはどうかということでございます。こちらについては、詳しく調べてこなかったのが大変申しわけなかったんですが、これはかつて議会の中から、議員のほうから提案をいただいた案件でもあります。赤間議員からもたしかその後も3010のことは触れていただいたと思っております。私どもとしましては、当時から市民の中でそういった3010を広げていこうということを期待しておったんですが、市の職員っていいですか、中でも徹底しておりませんし、これは大いに反省しなきゃいけないなと思っているところでございます。

議員のほうからご紹介ありました飯豊町の取り組みですね。飯豊町のほうではSDGsの取り組みということで、さまざまな飯豊ならではの特性、地域性を生かしてさまざまな取り組みを行ってございまして、私どもも見習わなきゃいけないなと思っておりますが、もったいないプロジェクト、例えば社会福祉協議会の取り組みということでご紹介ありましたけども、そこにおけるフードバンクとか子ども食堂の取り組みなど、17の目標における貧困をなくそう、飢餓をゼロにとなどに該当する取り組みに当たると思います。一方で、消費者庁からの情報ということで、令和元年10月1日から食品ロスの削減の推進に関する法律が施行されたことを受けまして、市民の皆様にも食品ロスについての関心を持っていただくことということで、議員からありましたように、「広報ながい」で記事に取り上げまして、その中で3010運動にも触れさせ

ていただいたところでありましたので、ことしの新春祝賀会での食品ロスについては大変申しわけなく、ご指摘をいただいたフェイスブックなどで上げていただいた方には、直接お会いしておわびを申し上げたところでございます。大変これは、私もちょっと気づいておって、まだ締めなきやいいんじゃないかっていうことは言ったんですが、直接的にやっぱりアナウンスして、ことしの祝賀会は食品にお金をかけたんですね。ところが私も酒に限られるっていうのわかっているものですから、全然席に箸もとらないですと挨拶に回って、そのうちにもう締めるっていうことだったんで、余ってんじゃないかということだったんですが、まずそれを食べてもらえという指示までしなかったっていうのはちょっと悔やまれるんですが、大いに反省しなきゃいけないと思っているところでございます。

ご紹介いただきましたコースターとして3010、飯豊町でそういうのなさっているということで、これらについて私も長井市ではどうするかということですが、飲食店の皆様と連携をとらなきゃいけないということだと思いますので、飲食業組合さんとか、あるいは商工会議所さんなどと連携をしまして、どういう方法がいいのかいろいろ検討しながら、食品ロスをなくして、そういうつくっていただいた農産物とか料理をやっぱり感謝をしながらきれいにいただくということを徹底すべくこれからもいろいろ働きかけしてまいりたいというふうに思いますので、引き続きご助言等をいただければと思います。

最後に、3点目は、学校給食共同調理場のアレルギー食対応についてでございます。

議員のほうからは、アレルギー食に対応するため管理栄養士の採用を検討する必要があるんじゃないかというご提言でございます。議員のほうからありましたように、これらについては以前から私どもでも採用しなきゃいけないとい

うふうに思っておりました。ただ、先ほども申し上げましたように、最初から管理栄養士っていうのは想定してなかったんですね。職員採用計画10年間の計画立てまして、立てた本人がやぶっちゃいけないということで、実は少し待ってるということで抑えてた。令和2年までの計画でありますので、令和2年度から今度令和3年の採用に向けていろいろ検討してまいりますので、その中で検討していきたいと思っておりますが、現在は嘱託のような形で実はいらっしゃいまして、ただ、正職員で採用してないということでもあります。

以前から食改の皆様からとか健康課からぜひ欲しいというふうに言われておったんですが、今度、ついこの間の日曜日に起工式を行った学校給食共同調理場でございますけれども、令和2年度中に完成して令和3年の春から新たな調理場で子供たちに栄養価の高いおいしい給食を提供するという事なんですけれども、児童センターの子供たちにもアレルギー食を含めて提供いたします。その際に、今現在、県のほうから派遣いただいている管理栄養士さんについては、児童センターは市の施設でありますので、市っていいですか管轄外になるものですから、義務教育の給食に関して県のほうからその方が派遣されておりますので、いわゆる児童センターの園の給食の対応については、市の管理栄養士、管理まで必要ないですが、栄養士さんが献立、メニューをつくらなきゃいけないということでもありますので、こういったことも含めて令和3年、早ければ、あるいは令和4年度中に採用すべく検討してまいりたいというふうに思います。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 昨年行われましたけん玉芋煮交流会につきましてお答えしたいと思います。

先ほどご紹介ありましたように、昨年の10月、台風のさなかではございましたけども、けん玉

芋煮交流会というものを開催していただきました。現在、けん玉を使ったまちの活性化事業につきましては、長井市からけん玉のふるさとプロジェクト実行委員会のほうに事業については全面的にご委託申し上げまして行っていただいているところでございます。

このたびのけん玉芋煮交流会の事業に関しましては、プロジェクト実行委員会の委託してる事業とは別に駅前のかん玉広場スパイクを中心に活動いただいておりますけん玉ファミリーによる自主的な事業でございました。よって、この事業につきましては、全て会費制で自前で行ったというふうな状態でございます。

この事業のきっかけにつきましては、けん玉広場スパイクや市内でもさまざまこれまでけん玉のイベントを行ってまいりまして、おかげさまで県内外から多くの方に訪れていただいております。一方、スパイクファミリーの前身でありますべにばなレジェンド、このメンバーにつきましては、プロジェクト開始当時から非常に苦勞して市外、県外に出向きまして、多くのけん玉を通した知り合いをつくってきていただいたということがこれらの事業のベースになっているというふうに考えております。けん玉の産地としてももっと長井市としても交流を広げたい、深めたいということから始まったこの芋煮会行事だと聞いております。初めは平成29年にバーベキューからスタートしたと聞いておりますけれども、今回の芋煮会で計4回継続して開催しているというふうな状況でございます。

続きまして、長井市民けん玉大会の今後の予定等についてお話ししたいと思います。長井市民けん玉大会につきましては、ちょっと我々は通称市長杯と呼んでおりますが、けん玉のふるさとプロジェクトが始まって以来のこの大会というものは課題としていたところでございます。けん玉による長井市の知名度アップの一つとして開始したものでありますが、今回、初めて行

ったんですが、参加は子供が多かったわけですが、保護者の方々の応援も非常に多くおありまして、大変盛り上がった大会でなかったかなというふうに思っております。

けん玉の発祥地としては、有名なところは広島県廿日市市です。ここは日本のけん玉発祥の地ということもありまして、けん玉の聖地と言われております。しかし、長井市につきましても、市内の企業の努力によりまして、長井で生産されているけん玉が今は世界的に知られる商品というふうになっておありまして、世界のプレーヤーの中では日本の東の聖地は長井市であるというふうに呼ばれていると伺っております。

プロジェクト開始後にさまざまなこれまで取り組みを行ってまいりましたけれども、けん玉の聖地としては果たして長井市はそこまで市民にけん玉が浸透してるだろうか、深まっているだろうかというふうなことがありまして、聖地になるには市民の皆様が日ごろからけん玉にもっと親しめる、そういったことがベースとなるというふうに考えておありまして、まずは市民の皆様にはけん玉をもっと定着させようというふうな目的もこの大会の一つとしてあったところでございます。

この取り組みを契機に、プロジェクトとしては市民の皆さんに盛り上がっていただいて、またギネス世界記録などにも挑戦できるようなこともできたらいいなというふうに思っているところでございます。

なお、市民けん玉大会につきましては、今後ともプロジェクト事業として継続していきたいというふうに考えております。費用につきましては、もしかすると一部参加者からも負担をいただくということも考えながら予算の範囲内で継続してまいりたい事業だというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上になります。

○平 進介議長 竹田 洋学校教育課長。

○竹田 洋学校教育課長 鈴木富美子議員から子供たちの集中力アップやアウトメディアにつなげる施策にけん玉を利用してはどうかというご提言をいただきました。ありがとうございます。私自身、現場の教員をしていたときに、けん玉は大変集中力を高める遊びで、加えてわざをきわめるおもしろさや膝や腰を使って体幹を鍛える動きをつくるなど、心技体を育てるすばらしい遊びだなどと思いながら、子供たちの取り組みを応援したものでした。

現在、流行しているスマホや小型の通信端末で行うメディア系のゲームとは次元の違う価値ある遊びであると私も認識しております。調査をしましたところ、現在、市内全ての小学校でけん玉を推奨して取り組んでおります。学校によっては、自分専用のけん玉、マイけん玉と呼んでおりますけれども、これを教室に入れて、そしてそれを使っている学校、空き教室、ホール、供用のスペースにけん玉が常備されていて、そしてそれを休み時間の遊び、そして冬の遊びとして使っている学校、クラブ活動、学校行事、または生活科などでけん玉のわざを競い合ったり、または検定を目標にして挑戦したりと、各学校、それぞれ実情に合わせて、休み時間、放課後などを中心にけん玉に触れているようです。

長井市は議員からお話がありましたように、歴史的にも強くけん玉と結びついております。アウトメディアへの取り組みとしての面に加えて、やはり郷土愛とか伝統文化という面からも、今後とも学校の中でもけん玉を大切にしていこうというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○平 進介議長 近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長 鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

新春祝賀会でございますが、食べ残しについてどう思うか、会の目的を改めて考える必要があるのではないかということでございますが、

まず、新春祝賀会でございますが、毎年、ご用始めの日に市の関係者として市政功労者を初め、特別職やさまざまな委員等をお願いしている方々、それから商工会議所会員の方々、それに来賓として国会議員や県会議員の先生方など、各界の方々に広くお集まりいただきまして、新年をことほぎ、出席者それぞれに年始のご挨拶をする会として開催しております、これらの方々へのご案内とともに、「広報ながい」や市のホームページによりまして、広く市民の方々にも出席を呼びかけておるところでございます。また、各自治体でも同様の賀詞交歓会などの名称でも開催されているようでございまして、新聞記事などにも取り上げられております。

議員からのご質問でございますが、以前は出席者相互で新年のご挨拶をするという場として立食形式をとっておりましたが、出席者に高齢者の方々がふえてきたりということがございまして、立食から各テーブルに椅子を置いて座っていただいたの形式に、また、出席者の増加によりまして、今回から料理を各テーブルで自席で料理を盛り分けるということができるようになることの変遷を経てきたところでございます。

議員からご指摘のありましたことにつきましてですが、そのご指摘のとおりでございます。出席者同士の懇談という趣旨は踏まえつつ、テーブル上の料理につきましても賞味をずる時間を設けるなどの配慮はやはり必要だったというふうに考えられまして、司会からのアナウンス等での食事を促すような進行を行うべきであったということで、ここは深く反省しております。

なお、今後このようなことにも気をつけてまいりたいと思ひまして、例えば飲み物の状況だけでなく、食べ物の状況なども、食べ残ししないようにと頑張っていただくことで目配りをさせてい

ただくこともやっていかなければと考えているところでございます。ご提言ありがとうございます。

○平 進介議長 桐生芳弘教育参事。

○桐生芳弘教育参事 私からは、学校給食共同調理場のアレルギー食対応について、2点、答弁をさせていただきたいと思っております。

1つ目の調理場新築に伴う市職員の配置や業務の変更はあるかということですが、現在の学校給食共同調理場では、小学校6校、中学校2校、さらに米沢養護学校の長井校、西置賜校ということで、10校に給食を提供しております。学校給食の提供に当たっては、献立作成から栄養管理、栄養指導などを行う県が給料を負担している職員、いわゆる県費負担の学校栄養職員2名が配置されております。新調理場におきましては、学校給食のほかに児童センター5カ所とすみれ学園の計6カ所への給食の提供も考えておりますので、献立作成など学校給食と同様の業務を行う栄養士の配置が新たに必要になると考えているところでございます。

2点目のアレルギー食の対応に関して、児童センターの児童・園児に対して仕事ができるかというご質問でございますが、先ほど市長からも答弁がありましたように、県費負担の学校栄養職員につきましては、学校給食の栄養に関する専門的事項をつかさどる職員として配置されているということから、あくまでも学校給食に関する業務を行う者ということで、児童センター等に対する業務についてはできないというふうなことで認識をしているところでございます。

○平 進介議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時00分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、赤旗新聞社記者から、本日の会議においてパソコン、カメラ、録音機の使用について申請があり、許可いたしましたのでご報告いたします。

また、渡部秀樹議員並びに今泉春江議員から、資料の配付について申し出があり、会議規則第150条の規定により許可いたしましたのでご報告いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

議席番号10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 それぞれの項目につきまして、ご答弁ありがとうございます。お昼を挟んでしまって間抜けした質問になるかもしれませんが、ちょっとご容赦願いたいと思っております。

けん玉につきましては、市長からしっかりしたご返事をいただきました。ありがとうございます。長井市には伝統工芸、獅子踊りや金井神ほうき、長井紬などいろいろありますが、けん玉につきましては、長井市のわざとして今後しっかりと伝えていくべきではないかなと思っておりますし、ペインティングにつきましても、まだまだ市のほうに皆さんに広がっていないと思っておりますので、その点も含めまして、6月議会に検討していただくという返事いただきましたので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

あと、食品ロスにおきましてもですが、やはり一番大切な市の祝賀会であります。それから発端といたしまして、やっぱり市民の方にちゃんとした形でわかっていただく。いろんな会でも私たち自身が心にとめながら、もったいないという、これから本当どうなるか、コロナウイルスに関してもこんなふうになるとは誰も思

ってなかったの、やはり食品とは大事だということで、私はもっとしっかりと市として進めていくべきと思いますが、市長、もう一度その件について伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 食品ロスについてですね。はい。食品ロスについては、鈴木議員からあったとおりでございまして、今後の進め方については、私ども行政だけではなく、市内で今はちょうどコロナウイルスで卒業式とかの祝賀会等々が自粛のようございましてけれども、今後、年度がかわってさまざまな会合等々が必ずまた早い時期に復活するのを望みますけれども、その際はやっぱり民間の皆様にも声をかけてやらないとだめだと。長井市だけのパフォーマンスではしようがないと。実際、成果を上げるようにすべく、市内の先ほど申しあげましたように、飲食業組合さんとか商工会議所のサービス部会さんとか、そういったところと協議しながら、ぜひ市内の飲食等々についてはしっかりと食べる、食べていただくような時間を設けるとのことだと思っております。

振り返ってみますと、祝賀会のときは、私が座っていた席と、あと空き席、出席予定だった方が来られなかったというので、五、六人の席があいてたんです。そこがそのまま残ってたんですね。あと、私どもの場合は食べる時間がなかったと。もう酒つぎもやっと、挨拶に回ってやっと戻れるかぐらいでもうすぐ閉会だったので、この辺のところをやっぱり会のあり方として、まずは市でも、先ほど申しあげましたように、徹底するようにしてまいりたいと思いますし、あと民間と一緒にあって長井市のほうは食品ロスがないまちとなるように努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 ぜひそうしていかないといけないと思います。時間も3時ぐらいだとやっぱりおなかもすいてないこともありまして、時間の変更もあるのかなと思っておりますので、ぜひ検討をお願いします。

あと、3項目めの新調理場における管理栄養士の件ですが、しっかりした返事を令和3年度からということでお聞きいたしましたので、ぜひよろしく願いしたいと思っております。

私からの質問は以上でございます。ありがとうございました。

### 内谷邦彦議員の質問

○平 進介議長 次に、順位3番、議席番号8番、内谷邦彦議員。

(8番内谷邦彦議員登壇)

○8番 内谷邦彦議員 政新長井の内谷邦彦です。施政方針について市長に質問いたします。

最初に、人口減少問題について伺います。

厚生労働省は2019年12月24日、2019年の人口動態統計の年間推計を発表しました。1年間に生まれた子供の数は1899年の統計開始以降、初めて90万人を下回り、過去最少の86万4,000人、死亡数から出生数を引いた自然減は51万2,000人で初めて50万人を超え、減少幅は過去最大になる見通しで、人口減は13年連続となりました。51万2,000人という数は鳥取県約55万5,000人の人口に匹敵する規模となっております。ちなみに令和2年1月1日の山形県の人口は107万4,523人です。

年間推計によると出生数は前年確定数よりも約5万4,000人減る一方、死亡数は前年より約1万4,000人ふえて戦後最大の137万6,000人となりました。出生数が減少したのは人数の多い団塊ジュニア世代、1971から74年生まれが40代